

との初顔の対戦。当然ながら、綱乃花が左を差すものと思われたが、逆に左を差したのは西神門でそのまま寄り切られてしまった。

「まだまだだ！場所後に稽古だ！」と手厳しい友砂親方。来場所は三役に復帰し、いよいよ大関獲りを目指すスタートの場所となる。

千秋楽に綱乃花に勝った西神門は9勝2敗と千代鈴に次ぐ準優勝の成績で今場所を終えた。横綱土俵入り後の千代鈴が調整のために西神門と稽古する様子を見た錦風親方は改めて西神門の強さを目の当たりにしたという。「こいつは強いなあ！」と春日根親方に感想を漏らすと「そうなんですよ！」と春日根親方も西神門への期待を口にした。来場所以降の西神門の相撲に注目したい。

千秋楽の打ち出し後、「いよいよ千代鈴時代か？」と朝日松理事長が語った。今場所の相撲を見る限り、千代鈴の独壇場でそういう風な言葉が出るのも頷ける。来場所はとうとう春ノ翔が連続休場する模様。若ノ嶋は出場に向けて稽古を再開するらしく「千代鈴時代」と言われるのを阻止するのか大いに期待したい。来場所の初日は9月下旬の開催予定だ。(錦風)

鹿麒麟、連勝で麒麟王を逆転

十両は麒麟王と鹿麒麟の千秋楽決戦となり見事に熱戦を制した鹿麒麟が優勝を飾り、加えて幕内昇進も確実とした。

九日目まで全勝の麒麟王が十日目に蛮国に敗れ一敗に後退。十日目に鹿麒麟が敗れて麒麟王が勝てば千秋楽を待たずして麒麟王の優勝となることだったが、鹿麒麟が勝ったことで優勝争いは千秋楽2人の麒麟による直接対決で争われることになった。

迎えた十日目、先に鹿麒麟が島内を圧倒する相撲で退けて一敗をキープ。敗れた島内は3敗となった優勝争いからは脱落。鹿麒麟が勝ったことにより麒麟王自身も勝ってこのま



鹿麒麟○(寄り切り)●島内

ま星一つ差をリードしたまま千秋楽を迎えたところ。

相手となるのはすでに勝ち越しを決めて今場所も好調の蛮国。当然右から攻めたい麒麟王。一方、蛮国としては今場所牙をにやえわたる麒麟王の右攻めを凌ぐべく何か策を仕掛けたところ。そして立ち上がるや否や蛮国が一か八かの豪快な掬い投げ一閃。これが見事に決まり麒麟王は背中から土俵に崩れ落ちた。よもやの蛮国の奇襲作戦により、9勝1敗でとうとう鹿麒麟と麒麟王が並ぶ展開になった。

そして迎えた千秋楽。勝った方が優勝となる大一番。麒麟王はここまで先頭を走ってきただけに、優勝は譲れないところ。かたや、鹿麒麟は新十両の時は陥落したものの今場所は実力が一気に開花し、このチャンスをものしにしたところ。親方衆が見守る中先に麒麟王がのど輪で攻めたてる。

しかし、うまくかわした鹿麒麟が左を差して有利な形に。最後は万全の体勢から寄り切って決着となった。この結果に「まさか鹿麒麟が優勝するなんて場所前はこれっぽっちも予想してなかったよ」と満面の笑みを見せたのは師匠の鹿賀乃戸親方。来場所は幕内での土俵となるが、今場所のような左差しの相撲が取り切れれば、鹿賀が新入幕の場所まで優勝を飾れないかも。も夢ではないかも。

中々幕内に届きそうだった西四枚目の櫻吹雪が勝ち越しを決めたが、またしても昇進は来場所以降に持ち越しとな



麒麟王●(掬い投げ)○蛮国



麒麟王●(寄り切り)○鹿麒麟



櫻吹雪○(押し倒し)●島内

った。また同じ鹿賀乃戸部屋から黒雲海の再入幕も決まった。今度は幕内での勝ち越しを決めたいところだ。(勝間田)

幕下は逆馬山、錦風勢大活躍

幕下は四日目まで共に4連勝同士の対決となり、逆馬山が寄り切りで玉乱を破って初優勝を果たした。

優勝をかけた一番は先に左を差し勝った逆馬山が腰を落として万全な体勢から玉乱を下した。この優勝で逆馬山は十両昇進も確実にした。玉乱も場所前は他の春日根勢とも優勝候補に上げられていて、その通りの活躍を見せた。

他で十両昇進を決めそうなのは、逆起、英風、猿飛が有力と見られる。英風以外はすべて新十両となるだけに、十両での相撲も楽しみなどところとなる。その中でも、147回場所の醍醐以来の関取誕生となるのが錦風部屋の逆起と逆馬山の2人。

「十両力士なんていつ以来だか覚えてないよ」と錦風親方。しかし、その後にも虹ヶ谷や逆本、磐若なども控えていて昇進ラッシュとなっていくような気配だ。この猛暑の中であったが、ようやく錦風部屋に春が巡って来た場所となった。

先場所三段目で優勝した大松戸部屋の松田山が4勝1敗と十分な活躍を見せた。今場所のような相撲を今後も続けていければ十両も見えてくるだろう。一方で、元幕内の初戸が最後の相撲も力なく寄り切られて廃業となった。(山里)



逆馬山○(寄り切り)●玉乱



磯雷光●(寄り切り)○松田山

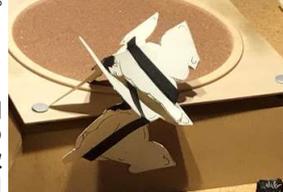
三段目〜序の口

三段目は全勝で磐若と徳皇が対戦。今場所好調の錦風部屋の勢いそのまま、徳皇を相手にせず、寄り切った。

注目の秋田部屋は千曲海が戸田を倒して勝ち越し。難波山は4勝目を逃したものの来場所



千曲海○(寄り切り)●戸田



難波山●(寄り切り)○亀風

序二段でも錦風部屋勢が大活躍。先場所から負け知らずで優勝最有力の紅の華を逆岩が倒すというまさかの展開。錦風部屋は幕下、三段目、序二段の三段制覇の快挙を成し遂げた。



逆岩○(寄り切り)●紅の華

序の口は全勝の森倉と黒盾飛葉の対戦。久々に新弟子を送り込んできた九十九親方は、その腕は錆びてはいるが、力強い相撲で鹿賀乃戸親方がウズベキス殿ついに顔立ちの飛葉を寄り切って優勝を果たした。(鹿賀乃戸)



森倉○(寄り切り)●飛葉